

田村 美樹

TAMURA MIKI

針穴、フィルム、デジタルカメラなどを使い、自分の心に触れた美しいものを表現する。シリーズ、手法は多岐にわたる。

日本大学芸術学部写真学科中退

- ・2011年針穴写真協会所属(以降毎年)江東区文化センター合同展参加
- ・2016/2『好キニ咲ク』清澄白河 Ls café 個展
- ・2016/4-5『好キニ咲ク』『REAL MY DAUGHTER』

自由が丘 SORA 個展

- ・2016/8 RAIEC 主催 六甲山国際写真祭レビューイ参加
- ・2017/4 2017 RAIEC Tokyo 合同展 3331 アーツ千代田
- ・2017年 エプソングランプリ「V-edition 賞」受賞
- ・2018/3-9 『A girl, doll, daughter』原宿 sora an 個展
- ・2018/6 In the darkroom 黒白写真フリーク展VII

JCII フォトクラブ合同展

- ・2019年エプソン主催「meetup！」審査員賞受賞
- ・2019/9 『私小説、平塚。~半径二キロの光~』

平塚美術館市民アートギャラリー 個展

- ・2020/8 『廃園~データの花シリーズ』SPEACE K 代官山 個展
- ・2020/10 『Re : 私小説平塚。~半径二キロの光~』

元麻布ギャラリー平塚 個展

- ・2021/5 乃木坂 Ta GALLERY にて『楽園散華、散華廃園』個展
- ・2022/9月 11日~27日 ひらしん平塚文化芸術ホールにて  
「私小説、平塚~半径二キロの光」

## 動機

とても綺麗だと感じたから

撮り始めの当初は、ただ花の新たな美しさを追った。

だがある日、花の美しさをうまく表現しきれていないと焦れて花をちぎって投げ捨てた。

するとさらに新しい花の散る姿が映し出された。

そしてある日、一度写真を撮った切り花を花瓶に放置したところ、花は実となった。

その写真を取り終えて見てみると、妖しくて美しい実の色が表現されていた。

それと共に、死んだ切り花は実は生き続けていて、花が実となったことにぞくりとした。

死んだ女は孕んだような、そんな怖さを、美しさと共に感じた。

それから花を死んだ状態になってから撮るようになった。



















